

1 NO POVERTY



〈目標1〉 貧困をなくす

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

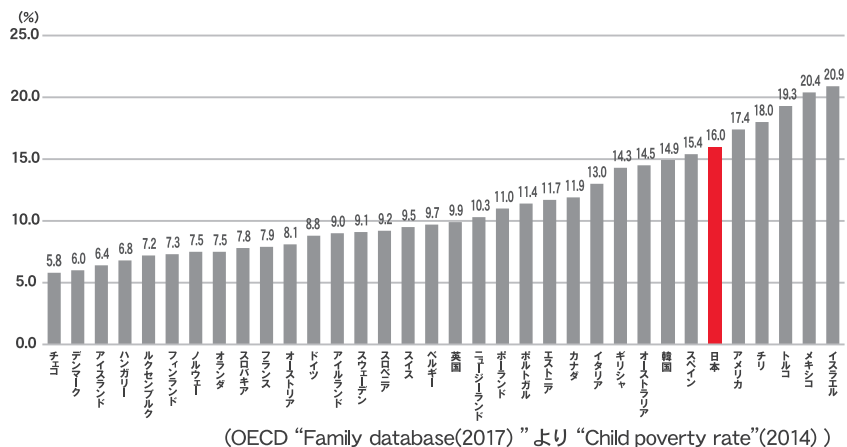
目標1の主な内容

- 世界から極端な貧困状態をなくし、貧しく厳しい状況で暮らす人たちの数を半分に以下にする。
- すべての人たちに最低限の生活水準を保障する社会保護制度を整える。
- 性別や社会的地位に関わらず、経済的資源等に対する同等の権利を保障する。
- 自然災害や、経済・社会環境の突然の変化から受ける打撃からの回復力を高めるための施策を施す。
- 国際、地域、各国レベルで貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略とその実現のために必要な資金や政策を整備する。

問題の背景

- 世界で約8億3,600万人、途上国の約5人に1人が極度の貧困(1日1.25ドル未満で生活)状況にあります。
- 紛争の影響を受けやすく国家基盤が脆弱な小さな国は、貧困率が高い傾向にあります。
- 全世界の5歳未満の子どもの4人に1人が、年齢に見合う成長に達していません。
- 開発途上国において、貧困層の多くが自然災害の影響の大きな地域で脆弱な環境で生活しています。

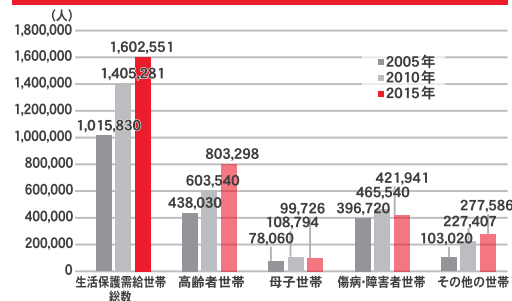
相対的貧困率 各国比較



日本の状況

- 子どもの相対的貧困率は、OECD(経済協力開発機構)加盟国34か国中10番目に高く、子どもがいる現役世帯のうちひとり親世帯の相対的貧困率はOECD加盟国中最も高いです。
- 日本の生活保護受給者数は約216万人(H27年11月)で、増加傾向が続いています。

世帯類型別被保護人員数の推移



生活保護受給者は1995年を底に増加に転じました。厳しい社会経済情勢の影響を受けて、失業等により生活保護に至る世帯(その他世帯)が増加していることなどがその背景にあります。

(平成24年版構成労働白書掲載の福祉行政報告例資料および総務省 統計局による「被保護者調査」)

絶対的貧困・相対的貧困

絶対的貧困とは、必要最低限の生活水準を維持するための食糧・生活必需品を購入できる所得・消費水準のない状況で、途上国の問題とされます。相対的貧困とは、国民の所得の中央値の半分を下回っていること。日本のような先進国でも高い数値が見られます。

地域からのヒント

まだ食べられるにも関わらず処分されてしまう食品を、食べ物に困る人を支援するために届ける「フードバンク」活動が全国で広がっています。食品ロス(フードロス)という環境問題と、貧困という社会課題を結びつけ、企業や農家、主婦や学生など、多様な主体が参加しやすいこの取り組みは、日々の暮らしの中から、持続可能な社会の実現に向けたアクションを育み、個人の生活と社会のつながりに気づきをもたらし多くの可能性を秘めています。



2014年環境省グッドライフフードを受賞したフードバンクかごしま学生チーム